

## 2010年3月期第2四半期決算説明会 主なQ&A

- Q 高速道路が無料化された場合の影響をどのように計算しているか。
- A 現在の高速道路「土日祝日上限1,000円」により、当社の運輸収入は年間で約50億円のマイナスの影響を受けると試算している。無料化された場合の影響については、精緻な計算は難しいが、平日にも拡大されて日数が約3倍になることに加え、上限1,000円が原則無料になることや、ETCが不要になるといった「影響が拡大する要因」と、無料になると高速道路の渋滞が深刻化することや、平日はビジネス利用が主であるといった「影響を緩和する要因」とを勘案すると、現在の3倍程度が妥当ではないかと考えている。
- Q 上期の単体営業費用の実績が想定を下回ったうち、経費節減努力の効果はどの程度出ているのか。
- A 今春に設置した「経営改善実施本部」を中心に様々な経費節減努力を行っており、効果も出つつあると見ているが、当社の費用は年度単位で管理しているため、上期において経費節減努力の効果が具体的にどの程度出たかを明確にお示しすることは困難である。
- Q 日本旅行の業績改善に向けて、どのようなことを行っているのか。
- A 団体旅行のセールス力の向上をはじめとする営業面での取り組みに加え、支店の統廃合などの組織の見直しや人件費を含むコスト面での見直しにも取り組んでいる。
- Q 2011年春の大阪駅開発の完成と九州新幹線との直通運転開始という2つの大きなプロジェクトの収支について、計画策定時と現在とでは、環境が大きく変わっていると思うが、当初の収支見通しは達成可能なのか。
- A 昨今の環境は非常に厳しいが、プロジェクトの収入見通しは堅めに作っていることもあり、現時点で当初の見通しを変える必要はないと考えている。

以上